

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー ソラリス	ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	ボディガード	
	エンジェルハイロウ		年齢	24	性別	男
オプション	覚醒	憤怒	衝動	憎悪	初期侵食率	46%
出自	疎まれた子	経験	永劫の別れ	邂逅	貸し：猫川美亜	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	1	0	0			1	行動値	9
感覚	2	1	0			3	(非装備時)	9
精神	2	0	0	1		3	戦闘移動	14
社会	3	0	0			3	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		RC	1		交渉	0	
回避			知覚	1		意志	2		調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
従者の弓	射撃	3r	-	7		従者専用
ショットガン (スラッグ)	射撃	6r+1	-	5		常備化
瞬烈ナル紅弾	射撃	8r+1	-	5		本体 C値8
紅キ楔二苦シメ	射撃	18r+1	-	5		本体 C値6

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲：	0	合計回避：	0
コネ：要人への貸し					
携帯電話					
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	タス	消費
Dロイス：黄昏の支配者P		N			
シナリオロイス：真名部優美子(?)P	憧憬	N 不信任			
Sロイス：語部詩杏P	尽力	N 悔悟			
PC間ロイス：白宮鸞P	懐旧	N 悔悟			
固定ロイス：猫川美亜P	信頼	N 食傷			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	8	残り財産P:	0		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
C:ブラム	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果：	C値-Lv							
赤色の従者	1	5	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	同工「ジャー」に従者を作成							
従者の行進	2	5	セットアップ	至近	自身	自動	Dロイス	
効果：	未行動の従者を作成する							
声なき者ども	2	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	1シーンに作成できる従者を+Lv							
狂戦士	2	5	Xジャー	視界	単体	RC	80%	
効果：	XジャーにC値-1 さらにそのDロイスを+Lv×2個							
ポイズンフォッグ	1	2	Xジャー	至近	範囲(選択)	シンドローム	-	
効果：	組み合わせたDロイスの射程を至近・対象を範囲(選択)に変換							
患者の兵装	1	-	常時	至近	自身	自動	従専	
効果：	アリアレイに従者専用アイテムLv個							
滅びの一矢	2	2	Xジャー	武器	-	射撃	-	
効果：	組み合わせた射撃攻撃のDロイスを+「Lv+1」							
ミスディレクション	1	5	オート	視界	単体	自動	-	
効果：	範囲の攻撃の判定を単体に変更。							
血の絆	2	3	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	シナリオ終了まで従者維持							
戦いの予感	1	2	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果：	最初のRのみ、行動値+Lv×10							
忌まわしき砲弾	2	3	Xジャー	-	範囲(選択)	シンドローム	従専	
効果：	1シーンLv回まで、範囲化							
ブラッドリーディング	★	-	Xジャー	至近	単体	自動	-	
効果：	血などの体液から色々分かる							

ボクは生まれた時から、誰からも愛されず…必要とされない子だった。障害があるとか、人間的に問題があるわけじゃないんだ。ボクが生まれてから、家族には不幸が続いた。父親は会社をリストラされ、母親は父からDVを受けた。そして不幸は親戚にまで及び…ボクは災厄を呼ぶ子として遠ざけられ…父と母からは虐待を受けた。学校でもボクは遠ざけられ、ボクの世界は孤独に染まっていった。

ただ、完全に一人ぼっちでは無かった。一人だけ…近所に一つ上のお姉さんがいた。その人だけは、ボクに接してくれたんだ。学校帰りと休日は決まって、その人と遊んだり…出かけたり…。父と母に虐待をやめるように言ってくれたこともあった。多分、ボクはあの人に恋をしてたんだと思う。

そして、ボクの世界は…唐突に壊れることになる。高校生になったボクは…夜中にあの人の悲鳴を聞いた。急いで悲鳴の場所へ向かったボクの目に飛び込んできたのは…ジャームによって腹に大きな穴を穿たれた…彼女の姿だった。突然のことで、立ちすくむしかなかった。あの人は最後に、消え入る声で言った。「どうか、幸せに生きて…」最後の最後までボクのことを思ってくれたあの人の言葉は、今でも忘れられない。そして、世界の全てを失ったボクは、目の前の化物に…煮えたぎるほどの怒りを感じた。許さない。許さない。殺す。殺す。その怒りが、ボクにオーヴァードとしての力をもたらした。

それからは夢中だった。…ボクの初めての血の力は…涙だった。そう、血の涙だった。怒りと、悔しさで体中の何かが千切れた感覚がして、血の涙を流していたんだ。

